

令和7年度学校評価 計画

学校名		唐津市立玉島小学校									
1 前年度 評価結果の概要		・児童が目的意識をもちながら学び合うことができるように、学習課題の設定を工夫したことで、達成感をもたせることができた。また、目的のある話し合いの場を設定したことで、考えを広げ深めあることにつながった。今後は、児童が自身の強みを自覚して、それを生かせるような学習活動の在り方を充実させていきたい。 ・玉島っ子アンケートを定期的に行い、それをもとに児童と面談を行うことで、困り感や悩みに寄り添い対応することができた。また、学級力アンケートやQUTテストで客観的に学級集団に対する満足度や生活意欲度を見るなどして現状を把握し、教師と共に児童も主体的に学級集団を高めていこうとすることができた。 ・地域人材の活用やゲストティチャーの来校など、地域との交流を図ったり、専門的知識や技能をもつ人を講師とした体験学習を実施したりするなど、積極的に児童の学びの幅を広げることができた。次年度は、さらに地域のよさを活かした活動を仕組み、地域への愛着や誇りをもつことにつなげ、その学びを発信していきたい。									
2 学校教育目標		“たくましく まごころいっぱい しっかり考え まなびあう” 子どもの育成									
3 本年度の重点目標		①一人ひとりのよさを引き出し、認めながら自信を育てる「出番・役割・承認」を徹底する ②主体的に学ぶ楽しさや学びを表現するよさを実感できるように授業を工夫する ③自他の命を大切にするとする安全教育・防災教育を充実させる ④ふるさと玉島を大切にするとする心を育てる「玉島学」を推進する									
4 重点取組内容・成果指標		中間評価				5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
重点取組			具体的取組		中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)			進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	○児童が目的意識をもちながら学び合い、考えを深めたり広げたりする授業を行う。自分の学びを自覚できる場を設定する。	○学習に関するアンケート「自らの言語表現を意識して学習に取り組んでいると思う。」、学校評価の質問事項「授業を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができている。」に肯定的な回答した児童80%以上	・「唐津の学びスタイル」の実践を図り、自己表現力を高める授業改善を行う。チェックシートを活用して学期半に振り返る機会を設定する。 ・児童の振り返りの記述やアンケートを基に、指導や支援の方法を探り実践する。								学力向上C 研究主任 各学年担任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自問ノートや道徳ノート、人権集会後の振り返りの記述において、豊かな心を身に付けたことが分かる内容を記述した児童80%以上	・自問ノートや道徳ノートの児童の記述に価値を見出しコメントを書く。 ・にこにこ集会(人権集会)を年4回実施する。 ・縦割り活動に取り組み、異学年との交流を通して、協力、助け合いができる機会を増やす。								道徳教育推進リーダー 特別活動部 人権・同和教育
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 ○いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	・玉島っ子アンケートを2か月に1回実施し、児童の生活の問題点を把握、改善する。把握したことや児童の様子などから、毎月1回程度の生活打ち合わせや連絡会等で気になったことを共通理解をして話し合うようにする。								生徒指導部 教育相談
	●○児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上 ●○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上	・授業だけでなく、教育活動全体で自己肯定感を育む取り組みの実践 ・児童の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等の実施 ・各種体験活動で、児童に活動の見通しをもたせ、学びの振り返りを行うことで自己の成長に気づき取り組みを仕組む。								キャリア教育 各学年担任
●健康・体づくり	●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・事例研修などを適宜取り入れ、自分事意識や危機意識を高めておく。 ・安全教育は、地域の実情に合わせて行い、体験の学びと振り返りを大切にし、自ら命を守ろうとする意識を高める。 ・複数の目で安全点検を行い、未然防止に努める。								保体部
	●望ましい生活習慣の形成	○家庭で約束したスマートフォン・ゲーム時間の遵守と「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身に付いた児童80%以上	・授業において睡眠やスマートフォン・ゲーム時間を守ることの大切さを伝える。 ・生活アンケートを定期的に実施し、規則正しい生活習慣の意識を高める。								
	○「運動習慣の改善や定着化」	○週に3日以上、授業以外で運動や外遊びを行う児童が75%以上	・朝や15分休み、昼休みの外遊びを奨励する。							生徒指導部 教頭	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・金曜日に定時退勤日を設定する。 ・その日の退勤時刻を見通した働きをするよう啓発し、平日18時30分の施設を目指す。 ・定期的に共有フォルダーや教材を整理し、様式や資料の共有化を図り、効率的に業務を進める。 ・会議のペーパーレス化により業務改善を推進する。							教頭 教務 主査	
	●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員80%以上	・特別支援に関する研修会を実施する。 ・児童理解研修、校内支援員会を開催し、情報共有を図り、学校全体での支援体制を整える。							特別支援C 特別支援学級担任
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者	
重点取組			具体的取組		中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)			進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
○開かれた学校づくり	○保護者・地域との連携	○地域人材を活用した「玉島学」、親子体験活動を年間1回以上全クラスで実施	・玉島学で、全クラスで地域人材を活用する。 ・全クラスで、親子体験活動を実施する。 ・学校での学びを発信し、保護者・地域の関心を取り込んでいく。								教頭・教務
○小小連携、小中連携の推進	○9か年の学びを念頭に置いた、小小連携、小中連携の推進。	○浜玉中学校区での体験活動を実施する。(小6と浜玉中1年との体験活動、浜崎小と平原小との合同体験活動を低・中・高で1回以上実施)	・中学校区で共通目標を設定し、実践を行い、評価・改善していく。								教務
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育											
5 総合評価・次年度への展望											